

この学校にわたしたち

2022. 12. 6

N050

悩める人がそこにいる…



本年はチャールズ・チャップリンの没後45年です。喜劇王として有名で多くの作品を通して見る人々に勇気と希望を与えました。そんな彼は役者の両親のもとに生まれましたが、父の酒癖の悪さが原因で両親は離婚し、兄とともに母親一人で育てられたそうです。その母も体調を崩し、やがて母は職を失い、家計は困窮を深めたと言われています。しかしながら、そんな状況の中でも母は、子どもたちの前でパントマイ

ムをして悲壮感を見せず、楽しく振舞ったと伝えられています。私は、この母親を親として本当に強い精神の持ち主だったと思うと同時にチャップリン自身がその後の人生をどこまでも“楽観主義”で生き抜いていけたのは母親の影響が非常に強かったのではないかと思います。少年時代、家計的に決して裕福でなかったが故に、母親の姿を通して、悩める人の辛さや悲しみを人1倍感じることができるようになったのではないのでしょうか。そう思うと、自分も含めて、生活の豊かさ故に大切なものを感じ取る力が劣ってしまっていないだろうかと思えます。チャップリン演出の名作は多いですが『街の灯』という作品の中でチャップリンが自殺をしようとしている富豪を励ます場面に私は感銘を受けました。

それは放浪者であろうと富豪であろうと同じ人間であるということ、そして同じ人間として悩める人間がいれば放っておかずに励ますということです。私たち大人、とりわけ教職員はこのことを忘れてはならないと心に常にとめておきたいと思えます。学校に通ってくる子どもたち…。自分と関わる子どもが本当に心配なことはないだろうか、苦しいことはないだろうかと心のアンテナを張り、もしそのようなことがあれば放っておかない、これが本当の人間の教師であると思えます。最近、ある人の実践レポートを読ませていただきました。そこにも「放っておかない」という内容がつつられていました。私はそのレポートからも大切なことを教えていただきました。



GIGA スクール構想については次号以降で掲載します。

- | | | |
|---------------------|----|-------------|
| 8日(木) 食育6年 | 5年 | 21日(水) 給食終了 |
| 9日(金) 朝会 | | 個人懇談 |
| 12日(月) クラブ活動 | | 22日(木) 個人懇談 |
| 13日(火) 食育3年・4年 | | 23日(金) 通学団 |
| 20日(火) スクールカウンセラー来校 | | |